

全国循環器撮影研究会だより No.21

発行所 全国循環器撮影研究会 〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

e-mail:zenjunken@yahoo.co.jp , <http://plaza.umin.ac.jp/~zen-jun/>

第 21 回全国循環器撮影研究会

総会・学術研究発表会その他の報告

循環器撮影専門技師認定制度の設立に向けて

第 21 回全国循環器撮影研究会総会議事録抄

全循研の夕べに参加して

被ばく線量低減推進施設認定について

被ばく低減推進施設認定の申請について

平成 19 年度 全循研理事と推進母体研究会代表者名簿



巻頭言

求められている専門的な知識と技能

山形大学医学附属病院放射線部

江口 陽一



“がん対策基本法案に対する附帯決議”の条文に次のような文面があります。

『八、放射線療法および化学療法については、がん医療における重要性が高まってきていることを踏まえ、卒前教育、卒後の臨床研修の各段階において、適切な教育、研修が行われるよう、必要な措置を講ずるとともに、これらの分野に関する人材の育成と専門的な教育研究体制の充実を図ること。また、放射線療法の品質管理が十分に行われるよう、適切な措置を講ずるとともに、あわせて、専門的な人材の育成に努めること。

十、がん医療においてもチーム医療による対応の必要性が増していることにかんがみ、看護師、薬剤師、診療放射線技師等のコメディカル・スタッフの専門的知識、技術の習得が促進されるよう、必要な措置を講ずること。』

診療放射線技師の名称が医療法等の文面に記述されることはいままでありませんでした。チーム医療の中で、診療放射線技師の役割・責任の重要性が増してきている証拠と思います。

平成 19 年 4 月 1 日施行の改正医療法においては、特に医療の安全を確保するための措置に重点が置かれており、「医療機器に係る安全確保のための体制の確保」が規定されました。その中で、我々に関連する装置として、診療用高エネルギー放射線発生装置と診療用放射線照射装置については、保守点検計画の策定と保守点検の適切な実施が義務付けられました。特定保守管理医療機器の保守点検はすでに医療法で定められており、今後循環器 X 線診断装置等の医療機器にも保守点検の義務付がなされる可能性があります。放射線に関連する機器の保守点検は当然放射線技師の領分であり他の職種にはできなと考えます。

このように、専門的な知識および技能を有する医療従事者の育成は放射線治療関係だけではなく、循環器疾患の領域にも求められているはずで、今、6 団体で設立を目指している日本血管撮影インターベンション専門技師機構(仮称)の目的は『本機構は、構成団体の連携により、統一的基準に基づいて、血管撮影と血管系インターベンションに携わる専門の診療放射線技師の認定を行くことにより、診療放射線技師の専門的な知識と技術を高め、最新の医療技術に対応した血管造影検査およびインターベンション治療の支援体制の確立を図るとともに、放射線機器の安全管理と放射線防護の最適化に努め、国民の健康に寄与することを目的とする』です。まさに時代ニーズに答える専門技師制度と思います。この専門技師制度が成功するか否かは、循環器撮影に関する唯一団体である全国循環器撮影研究会の会員の皆様にかかっていると考えております。何卒皆様の手でこの認定制度を本当に必要なものに育ててください。ご協力をよろしくお願いいたします。

第 21 回全国循環器撮影研究会総会 学術研究発表会

日時:平成 19 年 4 月 14 日(土)

場所:横浜市開講記念会館

1. 総 会(17:30~17:55)
2. 教育講演「画像処理技術について」
テリコシアケリアス製品事業部
Aquarius WS マーケティング マネージャー
清水 聡
3. 課題研究発表
「電気生理学的検査における臨床時の被ばくの実態」
主任研究員:新潟大学医歯学総合病院 岡 哲也
4. ワークショップ
「循環器撮影専門技師制度の動向」
マンモ専門技師より
山形大学医学部附属病院 鈴木隆二
MR 専門技師講演より
奈良県立医科大学附属病院 土井 司
放射線治療専門技師認定機構役員より
東京慈恵会医科大学附属病院 成田浩人
循環器撮影専門技師制度導入に向けて
山形大学医学部附属病院 江口陽一

3. CCT 優秀演題講演

座長:松山赤十字病院 水谷 宏

「IVR に伴う放射線皮膚障害の防止に関するガイドライン」

に沿った循環器 X 線撮影装置の線量実態測定班

班長:公立大学法人横浜市立大学附属市民総合医療センター 西田 直也

課題研究発表

1. 課題研究 1

【課題研究】「冠動脈インターベンション時の透視時間に影響を及ぼす因子の調査」

主任研究員:千葉県循環器病センター 景山 貴洋

座長:(財)秋田県成人病医療センター 土佐 鉄雄

2. 課題研究 2

座長:山梨医科大学医学部附属病院 坂本 肇

【課題研究】「電気生理学的検査における臨床時の被ばくの実態」

主任研究員:新潟大学医歯学総合病院 岡 哲也

循環器撮影専門技師認定制度の設立に向けて

山形大学医学部附属病院

放射線部 江口 陽一

1. はじめに

循環器撮影領域の専門技師制度については平成 16 年から検討をはじめた。最初は日本放射線技術学会の放射線撮影分科会の中で、循環器撮影領域の専門技師制度を作ることができないかを検討していた。皆様にアンケート調査をお願いした時期である。そのアンケートの結果 85%が認定制度は必要との意見であった。その結果に基づき専門技師制度検討委員会を班員 7 名で結成し、第 1 回の班会議を平成 17 年 10 月 20 日に鹿児島島の秋季学術大会の折に開催した。平成 18 年度より正式にスーパーテクノロジスト認定制度委員会に『血管撮影専門技師認定班』が設置され、血管撮影と血管系 IVR に携わる専門の診療放射線技師の認定を行う“専門技師認定制度”を、関連団体と共に構築を目指して活動している。関連団体との協議会は、現在まで平成 19 年 2 月 24 日と 6 月 16 日に東京で開催した。その協議会の結果を含めて現段階での状況を報告する。

2. 認定機構の構成団体

認定制度を実行する第三者的な組織である認定機構設立に向けての協議会は下記の 6 団体で行っている。認定機構への参画については各団体とも前向きに検討していただいているが、正式な結果は各団体の理事会での審議の結果を待たなければならない。

- 日本インターベンショナルラジオロジー学会
- 社団法人 日本医学放射線学会
- 社団法人 日本循環器学会
- 特定非営利活動法人 日本脳神経血管内治療学会
- 社団法人 日本放射線技師会
- 社団法人 日本放射線技術学会

3. 専門技師制度の認定名

認定名についてはまだ仮称であるが、協議会では『血管撮影・インターベンション専門技師』と呼ぶことで意見がまとまっている。

4. 専門技師制度の目的

『構成団体の連携により、統一的基準に基づいて、血管撮影と血管系インターベンションに携わる専門の診療放射線技師の認定を行うことにより、診療放射線技師の専門的な知識と技術を高めて、最新の医療技術に対応した血管造影検査およびインターベンション治療の支援体制の確立を図るとともに、放射線機器の安全管理と放射線防護の最適化に努め、国民の健康に寄与することを目的とする。』

5. 申請資格の条件

申請資格の条件については、現時点では以下のような条件とすることを考えている。

- (1) 構成団体への在籍
構成団体のいずれかに継続して 3 年以上の会員であり、診療放射線技師免許保持者。
- (2) 経験年数
通算 3 年以上の血管撮影に関する診療業務に携わっている者。
- (3) 症例数
IVR50 例以上の経験を有すること。(部位は不問)
- (4) 学術成果
申請時からさかのぼって 年以内に別に定める認定単位を 単位以上取得している者。ただし、年間に一度は、構成団体の全国規模の学術大会に出席していること。
- (5) 装置の精度管理

機構が提示する放射線機器関連の安全管理及び品質管理に関する測定データを添える。

(6) 認定講習会

認定試験を受けようとする者は、本機構が主催する認定講習会を受講しなければならない。

6. 更新資格

更新資格の条件については、現時点では以下のような条件とすることを考えているが、症例数も検討項目にあがっている。

- (1) 更新申請時において、血管撮影・インターベンション専門技師であること。
- (2) 更新申請時において、過去5年間に、構成団体のいずれかに継続して所属し、会費を完納していること。
- (3) 更新申請時、過去5年間に、別表に示す単位表から 単位を取得していること。
- (4) 更新申請時において、過去5年間に構成団体のいずれかの全国規模の学術大会に 回以上出席し、かつ本機構が指定する講習会に参加していること。

7. 全国循環器撮影研究会の会員の皆様へのお願い

チーム医療の中で、専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成は必要不可欠である。認定機構が設立され機構の運営が上手くいかかわ全循研の会員の皆様にかかっているとんでも過言ではない。全循研は循環器撮影に関する唯一団体であり、認定試験を受ける多くの方は全循研の会員であると思う。認定機構設立後は皆様の手でこの認定制度が本当に必要なものに育てていただきたいと願っている。

第 21 回全国循環器撮影研究会総会議事録抄

日 時：平成 19 年 4 月 14 日（土）17:30～21:30

会 場：横浜市開港記念会館

〒231-0005 神奈川県横浜市中区本町 1-6（TEL：045-201-0708）

1. 開会の辞 安永実行委員長
2. 会長挨拶 安永全循研会長
3. 議長選出 安永国広
4. 議事進行
 - 1) 第 1 号議案 平成 18 年度活動報告：田辺事務局長より報告された
 - 2) 第 2 号議案 平成 18 年度決算報告：横山経理局長より報告された
 - 3) 第 3 号議案 平成 18 年度監査報告：水谷・横田監査委員より報告された
 - 4) 第 4 号議案 平成 19 年度活動計画：田辺事務局長より報告された
 - 5) 第 5 号議案 平成 19 年度予算案：横山経理局長より報告された
 - 6) 第 6 号議案 平成 19 年度役員選出，事務局長・理事の承認
 - 7) 第 7 号議案 その他
5. 第 1 号議案～第 6 号議案まで承認された
6. 閉会の辞 安永国広

資料.1 会員動向報告（相良健司）

資料.2 情報局報告（市田隆雄：情報局長）

資料.3 編集局報告（石黒秋弘，福西康修）

資料.4 専門委員会報告（安永国広：被ばく線量低減推進施設認定委員長）

資料.5 専門委員会報告（横田 豊：テキスト改訂委員会委員長）

資料.6 平成 18 年度賛助会員名簿

資料.7 全国循環器撮影研究会会誌 No19 広告掲載企業名簿

資料.8 全国循環器撮影研究会会則

第 1 号議案 平成 18 年度活動報告

活動報告について（安永国広：会長）

第 20 回全国循環器撮影研究会総会・学術研究発表会を開催（横浜市開港記念会館）（H18.4）

第 21 回特別講演会・学術研究発表会の企画を若松総企画委員長に依頼（H18.10）

被ばく低減セミナーテキスト編集員長を横田豊編集委員長に依頼（H18.4）

被ばく線量低減推進施設認定基準作成委員長を加藤京一委員長に依頼（H18.4）

全国統一被ばく線量測定班班長を才田壽一班長に依頼（H18.4）

だより No. 18 を発行（H17.7）

第 10 回循環器被ばく低減技術セミナー開催（H18.9.2）

担当研究会：循環器画像撮影研究会

開催場所：NTT 東日本関東病院（受講者：45 名）

講師派遣：東京大学病院 中川 恵一 先生

第 11 回循環器被ばく低減技術セミナー開催（H18.9.23）

担当研究会：東北アンギオ研究会

開催場所：弘前大学医学部臨床小講堂（受講者：57 名）

講師派遣：千田浩一（東北大学医学部保健学科）

第 12 回循環器被ばく低減技術セミナー開催（H18.10.28）

担当研究会：関西循環器撮影研究会

開催場所：奈良県立医科大学付属病院（受講者：32 名）

中間監査・常任理事会実施（NTT 東日本関東病院）（H18.11.3）

だより No. 19 を発行（H18.11.15 付け）

会誌第 19 巻を発行（H18.12：12.23 発送）

だより No. 20 を発行（H19.3.15 付け）

事務局会議・会誌だより配送（8 回）

庶務報告（田辺智晴：事務局長）

委嘱状関係

各理事宛に委嘱状を送付

役員・要請依頼状

各理事の施設長宛に要請状送付

講師派遣に伴う執務

東京大学医学部学長宛に中川恵一助教授の講師派遣依頼状を送付

奈良県立医科大学に施設利用許可願いを送付

被ばく低減セミナー執務

第 10・11・12 回の講師派遣依頼状受理

修了書の発行および送付

セミナー受講生募集の案内

講師派遣依頼に伴う執務

被ばく低減セミナーの講師派遣に係る業務

推進母体の研究会の講師派遣に係る業務

会誌・だより執筆依頼に伴う執務

東芝メディカルシステムズ宛に会誌原稿の執筆依頼状送付

株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン宛に会誌原稿の執筆依頼状送付

各推進母体へ、外国文献執筆依頼・施設紹介依頼

第 21 回総会・学術研究発表会の発表者に講演依頼状・前抄録依頼状・後抄録依頼状送付

著者校正原稿を依頼

広告関係

各メーカーに広告依頼状送付

協力して頂けるメーカーへ広告要綱の送付

協力して頂いたメーカーへお礼状・広告費の領収書・または請求書を送付

理事・推進母体との連絡業務

理事会・中間監査開催の連絡

議事録の送付

議案事項の事前連絡

平成 19 年度理事の推薦依頼文書を送付

その他の執務

会誌・だより編集および配送業務

平成 18 年度 全循研の各関係者の名簿を作成

第 20 回総会・学術研究発表会開催の礼状送付

大学病院医療情報ネットワーク（UMIN）へ代表者・事務局変更届けを送付

歴代会長宛に特別講演会・夕べの招待状送付



第 2 号議案 平成 18 年度決算報告（横山博典：経理局長）

平成 18 年度 全国循環器撮影研究会収支決算書

（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 15 日）

収入の部

(単位:円)

勘 定 科 目			予 算 額	決 算 額	備 考
大科 目	中科目	小科目			
会費収入			2,560,000	3,095,000	
	会費収入		1,230,000	1,396,000	
		一般会員会費	1,050,000	1,066,000	
		賛助会員会費	180,000	330,000	11 社
	登録費収入		200,000	99,000	
		研究会参加登録費	200,000	99,000	
	広告費収入		1,300,000	1,600,000	
		会誌掲載広告費	1,300,000	1,600,000	27 社
		全循研だより広告費	0	0	
雑収入			150,050	194,185	
	利 息		50	509	
	テキスト代	被ばく低減セミナーテキスト代	150,000	188,000	
	その他		0	5,676	17年度事務費払い戻し
当期収入合計(A)			2,710,050	3,289,185	
前期繰越金(B)			1,042,290	1,042,660	
収入合計(C)=(A+B)			3,752,340	4,331,845	

支出の部

勘 定 科 目			予 算 額	決 算 額	備 考
大科 目	中科目	小科目			
事業費			2,624,000	2,440,000	
	研究発表会費		534,000	359,400	
		会場費	300,000	48,400	
		講師料	50,000	127,000	小柴先生講演料, 交通費
		実行委員役務費	184,000	184,000	第 19 回総会・研究発表会実行委員役務費
	会 誌 費		1,100,000	1,277,875	
		印刷製本費	1,000,000	1,117,455	
		通信運搬費	100,000	160,420	
	研究助成金		240,000	40,000	
		学術奨励費	200,000	0	
		講演助成金	40,000	40,000	講師派遣費
	諸委員会費		750,000	762,725	
		セミナー開催助成	700,000	678,095	セミナーテキスト印刷代(377150 円)を含む
		委員会活動費	50,000	84,630	被ばく防護低減ポスター製作代
管理費			700,500	705,762	
	会議費		220,000	73,550	
		常任理事会・監査費	20,000	28,550	
		理事会費	200,000	45,000	
	旅費交通費		250,000	269,110	
		常任理事会・監査旅費	250,000	269,110	
		理事会旅費	0	0	
	事務局運営費		195,000	363,102	
		会議費	100,000	170,770	会誌, だより編集校正作業交通費を含む
		通信費	45,000	164,520	
		消耗品費	50,000	27,812	事務用品等
	ホームページ運営費		30,000	0	
		メンテナンス費	30,000	0	ホームページ運営費
	予備費		5,500	0	
		雑費	5,500	0	
当 期 支 出 合 計 (D)			3,324,500	3,145,762	
当 期 収 支 差 額 (A) - (D)			-614,450	143,423	
次 期 繰 越 収 支 額			427,840	1,186,083	

第 3 号議案 平成 18 年度監査報告（水谷宏，横田忍：監査委員）

平成 18 年度監査報告

全国循環器撮影研究会会則 21 条の規定により，監査を行ったので下記の通り報告します．

記

1. 業務監査

会務については，常任理事会および理事会に出席して担当理事の業務報告審議を聴取すると共に各種の公文書および議事録文書綴等を閲覧した．

2. 会計監査

財務については，平成 18 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 15 日の，会計収支計算書および証拠書類，その他関係文書を審査した結果，適正に間違いなく処理されていることを認めます．

平成 19 年 3 月 18 日

全国循環器撮影研究会 監事

水谷宏 (印)
横田忍 (印)

第 4 号議案 平成 19 年度活動計画案（安永国広）

- | | |
|----------------------------------------------|-----------------------------------|
| (1) 第 21 回全国循環器撮影研究会総会・学術研究発表会の開催 (H19/4/14) | (ア) 候補：循環器画像技術研究会 |
| (2) 会誌第 20 巻，会員名簿，全循研だよりの発行について | (イ) 開催地と時期：東京都：平成 19 年 9 月 8 日（土） |
| (ア) 会誌第 20 巻，平成 19 年 12 月発行予定 | (5) ホームページと電子メールによる情報提供 |
| (イ) 全循研だよりの発行，発行回数は 3 回の予定 | 平成 19 年度もホームページと電子メールによる情報提供 |
| (3) 平成 19 年度研究助成について | ホームページ講座の執筆依頼 |
| 一般研究助成 ... 応募なし | (6) 推進母体研究会への講師推薦・派遣 |
| 課題研究助成 ... 応募無し | (7) 被ばく低減施設認定制度を導入 |
| (4) 循環器被ばく低減技術セミナーの開催について | |

第 5 号議案 平成 19 年度予算案 (横山博典 : 経理局長)

平成 19 年度 全国循環器撮影研究会収支予算書 (案)

(平成 19 年 3 月 15 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日)

収入の部

(単位: 円)

勘定科目			予算額	備考
大科目	中科目	小科目		
会費収入			2,680,000	
	会費収入		1,290,000	
		一般会員会費	1,050,000	350 名
		賛助会員会費	240,000	8 社
	登録費収入		140,000	
		研究会参加登録費	140,000	会員(100 × ¥1,000), 非会員(20 × ¥2,000)
	広告費収入		1,250,000	
		会誌掲載広告費	1,250,000	25 社(平成 18 年度実績 27 社)
		全循研だより広告費	0	
雑収入			150,300	
	利息		300	
	テキスト代	被ばく低減セミナーテキスト代	150,000	150 冊
当期収入合計 (A)			2,830,300	
前期繰越金 (B)			1,186,083	
収入合計 (C)=(A+B)			4,016,383	

支出の部

勘 定 科 目			予 算 額	備 考
大科目	中科目	小科目		
事業費			2,850,000	
	研究発表会費		310,000	
		会場費	200,000	
		講師料	50,000	
		実行委員役務費	60,000	
	会 誌 費		1,500,000	
		印刷製本費	1,250,000	会誌, だより印刷代
		通信運搬費	250,000	会誌, 全循研だより発送費
	研究助成金		240,000	
		学術奨励費	200,000	課題研究助成金
		講演助成金	40,000	講師派遣旅費助成
	諸委員会費		800,000	
		セミナー開催助成	750,000	被ばく低減セミナー(¥300,000), テキスト印刷費(¥400,000)
		委員会活動費	50,000	
管理費			495,500	
	会議費		70,000	
		常任理事会費	20,000	会場費, 日当
		理事会費	50,000	会場費, 軽食, 平成 18 年度理事会日当
	旅費交通費		250,000	
		常任理事会・監査旅費	250,000	交通費
	事務局運営費		170,000	
		会議費	100,000	事務局引継ぎ, 事務局運営会議費, 役務費
		通信費	50,000	各種通信用切手代, 郵送費
		消耗品費	20,000	事務用品等
	ホームページ運営費		0	
		メンテナンス費	0	ホームページ運営費
	予備費		5,500	
		雑費	5,500	
当期支出合計(D)			3,345,500	
当期収支差額(A)-(D)			-515,200	
次期繰越収支額(C)-(D)			670,883	

第 6 号議案 平成 19 年度役員選出

(1)平成 19 年度

- ・会 長 候 補 : 安永 国広 (関西循環器撮影研究会)
- ・事 務 局 候 補 : 田辺 智晴 (関西循環器撮影研究会)
- ・監 事 候 補 : 水谷 宏 (中四国アンギオ研究会)
景山 貴洋 (循環器画像技術研究会)

第 7 号議案 その他

【会場からの質疑について】

資料 1 より, 粟井氏より会員の動向について, 減少していることについて事務局の見解を求められた.

これについては事務局と推進母体が協力して研究会の啓蒙活動を行い, 会員が増員するように努力していきたいと考えている.

【理事会報告より】

- 2) 被ばく線量低減推進施設認定の導入について, 4 月より開始する.
- 3) 会員カードの発行を行なう.

【資料. 1】

会員動向報告（相良健司）
会員数および会費納入状況

2007.3.15 現在報告

- ・2005 年度会員総数 410 名【前年度比+13 名】
- ・2006 年度会員総数 412 名【前年度比+ 2 名：内訳 05 年度会費納入者数 389 名 新入会 35 名 退会 12 名】
- ・2006 年におけるのべ会員登録数 1008 名
- ・2006 年度会費納入者 352 名
- ・2006 年度会費納入率 85.4%【納入者 = 2006 年度会費納入者数 ÷ 2005 年度会員総数 × 100】

推進母体別会費納入状況

会員総数 = 前年度会費納入者数 + 新入会者数 - 退会者数

会費納入率 = 年度会費納入者 ÷ 年度会員総数 × 100

内 訳 推進母体	2005 年 度 総 会 員 数	2006 年度				2005 年度 会費納入 者数	2006 年度 会費納入 者数	会費増減 前年度比 (%)	会費納 入 率 (%)
		会 員 総 数	新入会	再入会	退会				
北海道アソシエーション研究会	13	13				13	10	76.9	76.9
東北循環器撮影研究会	74	66			3	69	56	81.2	84.8
新潟アソシエーション画像研究会	44	44		1	1	45	41	91.1	93.2
循環器 I.S 研究会	15	12			2	14	4	28.6	33.3
循環器画像技術研究会	68	72	7		2	67	61	91.0	84.7
東海循環器画像研究会	18	16			2	18	15	83.3	93.8
北陸アソシエーション研究会	10	10				10	10	100.0	100.0
関西循環器撮影研究会	49	55		1		55	48	87.3	87.3
岡山県アソシエーション研究会	4	4				4	3	75.0	75.0
広島血管 Imaging 技術研究会	2	3				3	3	100.0	100.0
愛媛アソシエーション研究会	4	2			1	3	2	66.7	100.0
九州循環器撮影研究会	22	23		3	1	24	19	79.2	82.6
メーカ	23	25	9			16	22	137.5	88.0
無所属および不明	62	67	19			48	58	120.8	86.6
合計	410	412	35	5	12	389	352	90.5	85.4

【資料.2】

情報局報告 (市田隆雄: 情報局長)

- 2006 年 4 月 5 日 全循研夕べに関するメール発送
- 2006 年 4 月 10 日 循環器画像技術研究会 第 224 回定例会をホームページに掲載
- 2006 年 4 月 11 日 79 号メールマガジンを発送
- 2006 年 4 月 28 日 第 8 回被ばく低減セミナー風景をホームページに掲載
- 2006 年 5 月 8 日 第 20 回記念講演風景をホームページに掲載
循環器画像技術研究会 第 225 回定例会をホームページに掲載
関西循環器撮影研究会 第 87 回セミナーをホームページに掲載
全循研会誌 17 号の発刊をホームページに掲載
80 号メールマガジンを発送
- 2006 年 5 月 17 日 福知山脱線事故のコメントをホームページに掲載
- 2006 年 5 月 22 日 第 44 回東北研定例会をホームページに掲載
- 2006 年 5 月 30 日 第 13 回北陸定例会をホームページに掲載
- 2006 年 6 月 5 日 全循研会誌 18 号の発刊をホームページに掲載
81 号メールマガジンを発送
- 2006 年 6 月 20 日 循環器画像技術研究会 第 225 回定例会をホームページに掲載
- 2006 年 6 月 21 日 九州循環器撮影研究会第 50 回記念講演会をホームページに掲載
全国循環器撮影研究会ホームページの掲示板を廃止
- 2006 年 6 月 24 日 第 10 回被ばくセミナー開催通知をホームページに掲載
- 2006 年 7 月 3 日 第 11 回被ばくセミナー開催通知をホームページに掲載
第 12 回被ばくセミナー開催通知をホームページに掲載
- 2006 年 7 月 6 日 82 号メールマガジンを発送
- 2006 年 7 月 10 日 平成 18 年度活動予定をホームページに掲載
平成 18 年度会長挨拶をホームページに掲載
- 2006 年 7 月 12 日 第 11 回被ばくセミナー変更分をホームページに掲載
- 2006 年 7 月 18 日 第 3 回広島島血管 Imaging 技術研究会をホームページに掲載
第 228 回循環器画像技術研究会をホームページに掲載
- 2006 年 7 月 19 日 血管模型の紹介をホームページに掲載
- 2006 年 7 月 26 日 被ばくセミナーの履歴をホームページに新規掲載
- 2006 年 8 月 11 日 関西循環器撮影研究会 第 88 回セミナーをホームページに掲載
- 2006 年 8 月 14 日 第 6 回 日本心血管カテーテル治療学会学術集会の演題募集をホームページに掲載
第 20 回 日本冠疾患学会の演題募集をホームページに掲載
83 号メールマガジンを発送
- 2006 年 8 月 16 日 循研 FPD 班アンケート依頼をホームページに掲載
循研 FPD 班のアンケートメールを発送
- 2006 年 8 月 23 日 循研 FPD 班のアンケートメールを発送
- 2006 年 9 月 4 日 循研 FPD 班のアンケートメールを発送
- 2006 年 9 月 11 日 循研 FPD 班のアンケートメールを発送
- 2006 年 9 月 13 日 84 号メールマガジンを発送
- 2006 年 9 月 21 日 第 56 回 新潟アンギオ画像研究会のご案内をホームページに掲載
- 2006 年 10 月 5 日 第 12 回被ばくセミナーのための防護衣アンケートをホームページに掲載
防護衣アンケートメールを発送
- 2006 年 10 月 6 日 第 11 回被ばくセミナーの開催報告をホームページに掲載
- 2006 年 10 月 7 日 循環器画像技術研究会 第 229 回定例会をホームページに掲載
- 2006 年 10 月 13 日 85 号メールマガジンを発送

- 2006 年 10 月 23 日 全循研だより 18 号の発刊をホームページに掲載
関西循環器撮影研究会 特別講演会の案内をホームページに掲載
- 2006 年 10 月 31 日 第 12 回被ばくセミナーの開催報告をホームページに掲載
第 13 回北陸アンギオ研究会セミナーをホームページに掲載
- 2006 年 11 月 4 日 循環器画像技術研究会 第 230 回定例会をホームページに掲載
- 2006 年 11 月 6 日 第 10 回被ばくセミナーの開催報告をホームページに掲載
86 号メールマガジンを発送
- 2006 年 11 月 15 日 循環器 X 線装置保守点検アンケート結果をホームページに掲載
- 2006 年 11 月 17 日 全循研だより 19 号の発刊をホームページに掲載
- 2006 年 11 月 27 日 循環器画像技術研究会 第 231 回定例会をホームページに掲載
- 2006 年 12 月 23 日 関西循環器撮影研究会 第 89 回セミナーの案内をホームページに掲載
87 号メールマガジンを発送
- 2007 年 1 月 13 日 防護衣アンケート結果の報告
88 号メールマガジンを発送
- 2007 年 1 月 21 日 関西循環器撮影研究会 ショートセミナーをホームページに掲載
- 2007 年 1 月 30 日 循環器画像技術研究会 第 232 回定例会をホームページに掲載
- 2007 年 1 月 30 日 全循研会誌 19 号の発刊をホームページに掲載
89 号メールマガジンを発送
- 2007 年 3 月 12 日 循環器画像技術研究会 第 233 回定例会をホームページに掲載
90 号メールマガジンを発送
- 2007 年 3 月 20 日 関西循環器撮影研究会 第 90 回セミナーをホームページに掲載
関西循環器撮影研究会 サマーセミナーをホームページに掲載

【資料.3】

編集局報告（石黒秋弘，福西康修）

全国循環器撮影研究会だより（No18）500 部 発行日：2006 年 7 月 10 日

全国循環器撮影研究会だより（No19）500 部 発行日：2006 年 11 月 15 日

全国循環器撮影研究会だより（No20）500 部 発行日：2007 年 3 月 15 日

会誌 19 巻（600 部）印刷・製本・発送（2007 年 12 月）

会誌 19 巻の国立国会図書館へ納本（3 月）

【資料.4】

専門委員会報告

被ばく線量低減推進施設認定委員会

委員長	全国循環器撮影研究会会長	安永 國廣
委員	循環器画像技術研究会	加藤 京一
	東北循環器撮影研究会	加藤 守
	新潟アンギオ画像研究会	水澤 康彦
	東海循環器画像研究会	牧 浩昭
	北陸アンギオ研究会	飯田 泰治
	関西循環器撮影研究会	横田 豊
	愛媛県アンギオ研究会	水谷 宏
	九州循環器撮影研究会	小宮 勲

懸案になっておりました「被ばく線量低減推進施設認定」につきまして平成 18 年 11 月に各推進母体をお願いをして上記の委員を推薦頂きました。そこで会長を委員長として取組むことと致しました。認定基準作成委員会でまとめてもらった申請書でスタートしたいと考えております。全循研のホームページを利用して申請して頂く方法等を検討しています。

4 月 13 日には日本放射線技術学会 ST 認定制度委員会の血管撮影専門技師認定班（班長江口陽一：元全循研会長）が撮影分科会でワークショップを開催します。翌日は全循研総会学術大会で、すでに認定制度がスタートしているモダリティの方を招き、これからの全循研の取るべき姿勢をディスカッションして頂きます。施設認定を受けた施設から認定技師が誕生する方向で各種団体と歩調を合わせる必要があると思います。

【資料.5】

専門委員会報告（横田豊：テキスト改訂委員会 委員長）

全循研 循環器被ばく低減技術セミナーテキスト改訂委員会

平成 18 年度テキスト改訂委員

横田 豊	滋賀医科大学附属病院
加藤 京一	昭和大学藤が丘病院
中田 充	東北大学医学部附属病院
才田 壽一	奈良医科大学附属病院
相良 健司	大阪府立泉州救命救急センター

以上 5 名

1. 平成 17 年度版テキストの検定・・・・・・・・・・平成 18 年 01 月 05 日～平成 18 年 2 月 28 日
2. 校正作業・・・・・・・・・・平成 18 年 03 月 01 日～平成 18 年 7 月 30 日
3. 安永会長へ 2006 年版テキスト巻頭言「発刊にあたって」 -
--被ばく低減技術の普及とガイドラインの実践-- を依頼 平成 18 年 4 月 15 日
4. テキスト 2006 年改訂版印刷製本発注・・・・・・・・・・平成 18 年 8 月 10 日
平成 18 年度版テキスト完成（2006 年 8 月 10 日付）
テキスト 2006 年改訂版製本を事務局および

セミナー開催研究会へ発送・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・平成 18 年 8 月 18 日

- (ア) 東北循環器撮影研究会 宮城県
- (イ) 循環器画像研究会 東京都
- (ウ) 関西循環器撮影研究会 奈良県
- (エ) 全循研事務局 大阪府

5. テキスト改訂における校正の主な事項

- p-2 テキスト図のみ・・・・放射線の透過力 各線種の凡例記号を削除した。
- p-5 スライドおよびテキスト・・・・自然放射線源による年実効線量当量 自然放射線源による年実効線量。
同 テキストのみ・・・・説明文に、UNSC EAR 2000 年改訂数値を表記した。
- p-28 スライドおよびテキスト・・・・「2-4.銅版厚と皮膚線量比の関係」を全面削除（前頁と類似のため）
- p-42 「2-19.II.使用劣化の実験例」 スライド・・・・300R まで実線，後の劣化経年推定を点線。
テキスト・・・・上～14行3年間使用したとすれば300R 300R に訂正。
- p-48 線量測定の実験中の参考文献表示 00000⁽⁵⁾等の上付数字を説明文とズレていたのを，
合わせた。
- p-150 の「7-21.しきい線量と被ばく時間」とp-151 の「7-22.症例 12 白内障」を入れ替えた。
- p-150 「7-21. 症例 12 白内障」， p-151 「7-22.しきい線量と被ばく時間」に訂正
2005 年版テキストまでの，スライドとテキストおよび説明文章での“皮膚傷害”を
2006 年版テキストでは，皮膚障害に改訂した。（全てのスライドおよび文中）
（また，例えば，明らかな放射線皮膚潰瘍であっても，皮膚障害の潰瘍と表現した。）

【資料.8】

全国循環器撮影研究会会則

第 1 章 総 則

第 1 条

本会は全国循環器撮影研究会 (Japanese Society of Circulatory Technology) と称する (以下本会という)。

第 2 条

本会の事務局は会長の指定する場所に置く。

第 2 章 目的および事業

第 3 条

本会は放射線撮影技術学における循環器撮影およびその関連技術に関する研究発表, 知識の交換並びに会員の資質の向上と相互の親睦をはかることを目的とする。

第 4 条

本会は前条の目的達成のため, 次の事業を行う。

1. 学術研究発表会, 講演会の開催。
2. 機関誌の発行。
3. その他本会の目的達成に必要なこと。

第 3 章 会 員

第 5 条

本会の会員は次のとおりとする。

1. 正会員

本会の目的に賛同し会費年額 3,000 円を納める者。

2. 賛助会員

本会の目的に賛助し会費年額 1 口 30,000 円で, 1 口以上を納める者または団体。

第 6 条

本会に入会しようとする者は, 所定の入会申込書を事務局に提出するものとし, 職種, 資格は問わない。

第 7 条

会員はすべて機関誌の配布を受け, 本会の主催する研究発表会, その他の事業に参加することができる。

第 4 章 役 員

第 8 条

本会に次の役員を置く。

- | | | | |
|---------|-----|-------|-----|
| 1. 会長 | 1 名 | 3. 理事 | 若干名 |
| 2. 事務局長 | 1 名 | 4. 監事 | 2 名 |

第 9 条

会長および監事は本会の総会において正会員中より選出する。会長は本会を代表し会務を統括する。

第 10 条

事務局長および理事は会長が推薦し, 本会の総会の承認を得る。

第 11 条

常任理事は理事中より会長が指名し、会長を補佐する。

第 12 条

役員任期は 1 ヶ年とする。ただし、再任をさまたげない。

第 13 条

本会は顧問を置くことができる。顧問は理事会において決定する。

第 5 章 会 議

第 14 条

会議は総会、理事会、常任理事会とする。

第 15 条

総会は毎年 1 回以上開催し、会長が招集する。総会では会務を報告し、会則の変更等、重要事項を審議決定する。

第 16 条

総会の議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

第 17 条

理事会は理事によって構成され、本会の重要事項を審議する。

第 18 条

常任理事会は常任理事により構成され、会長を補佐し、本会の運営について審議し、その事業を執行する。また、会長に事故あるときは次期総会までの間、職務代行者を推薦する。

第 19 条

理事会、常任理事会は会長が招集する。

第 6 章 会 計

第 20 条

本会の経費は会費、寄付金およびその他の収入をもって充当する。

第 21 条

監事は本会の事業および会計内容について年 1 回以上の監査を行わなければならない。

第 22 条

本会の会計年度は毎年 4 月 1 日より始まり翌年 3 月 31 日に終る。

付 則

1. 会長は、本会則に規定しない事業等を行った場合、理事会に報告し承認を得なければならない。
2. この会則は平成 2 年 4 月 4 日より施行するものとする。
平成 8 年 3 月 31 日一部改訂
平成 14 年 4 月 6 日一部改訂
平成 16 年 4 月 9 日一部改訂
3. 本会の推進母体は次に掲げる各研究会である。
北海道アンギオ研究会 北陸アンギオ研究会 東北循環器撮影研究会
関西循環器撮影研究会 新潟アンギオ画像研究会 循環器 I・S 研究会

循環器画像技術研究会
東海循環器画像研究会

中四国循環器画像技術研究会
九州循環器撮影研究会

全循研の夕べに参加して

(株) フィリップスエレクトロニクスジャパン

小松 秀行

JRC 期間中の 4 月 13 日に毎年恒例の全循研の夕べが開催され、フィリップスの一員としてこの会に参加させて頂き、これまた恒例のように十二分に堪能させて頂いたので、ここに簡単に印象記を書かせて頂きたい。

全国循環器撮影研究会に参加させて頂くようになり、もう 15 年以上の月日が流れたと思う。以前より、循環器に特化した非常に専門性の高い研究会との印象があり、参加当初はその迫力に押され、とても意見など言えなかったことを良く覚えている。

しかし多くの著名な会員の先生方とお話するようになり、その厳しさと優しさ、その結束力と包容力を併せ持つことを実感することができ、いつの間にか私にとっても掛け替えのない会となっている。

今年も安永会長のご挨拶の中に、「安全で安心できる医療を目指す。」とお話があったと思う。医療の本質を見つめた上での専門性の重要性を説かれているようで、真摯に切磋琢磨していこうとする姿勢が良く現れており、この会の伝統を垣間見たような気がした。

メーカーとしても襟を正して、恥ずかしくない対応をしていかなければいけないと再認識した。

そして会は進行するに従って盛り上がりを見せた。ためになる話あり、笑い話あり、美味しい地酒ありで、良いこと尽くめである。メーカーへの配慮も十分で、疎外感を感じることなく、普段ご無沙汰の先生方との親睦を深めることができた。

今後の改善点を無理に探すとすると、私が若かりし日に感じたあの恐怖感に近い感覚を若い方々に早く払拭してもらおう工夫があっても良いのかもしれないということであろうか。いづれにしても、私にとっては時間を忘れてしまうくらい楽しい一時であった。

ここに会員を皆様に感謝の意を表したい。



全循研の夕べに参加して

東芝メディカルシステムズ株式会社 営業本部 営業推進部
廣瀬 聖史

本年も無事 JRC/ITEM が終了し、メーカーの人間としてはホッと息つける瞬間です。ITEM では弊社ブースに多数の方々にご来場頂き、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。弊社のような画像診断機器メーカーとして、JRC/ITEM は学会・展示会としての楽しみだけではなく、同時期に行われる「全循研の夕べ」に参加できることも大きな楽しみになっております。1年に1度 全循研の皆様あるいはメーカー様と様々な情報交換ができるビジネスの場として、また、談笑を通じて親交を深める場として重要な会となっております。参加する回数が増えれば増えるほど、面白い話題に遭遇します。また 新たな人間関係を築くこともできるわけです。「飲んでつながる人間関係 万歳！」という弊社の体質にも良くあっているのだと思います。

本年も複数名の弊社社員が「全循研の夕べ」に参加し、安永会長を初めとする多くの全循研の皆様とご挨拶でき、また全国各地の「美味しい酒」を頂くことができました。全国の「美味しい酒」も「全循研の夕べの」楽しみの一つです。(むしろ、これが目的の社員もいるようで・・・)新潟大学農学部産の日本酒には驚きました。

機器を利用されるユーザ様とメーカーの人間が、これだけ近い距離で情報交換できる場というのは、そうはないものです。若い社員にも気軽にお声かけいただければ、社員にとっても良い勉強となります。「全循研の夕べ」で楽しく過ごせた年は、弊社にとって良い一年を過ごせます。貴会の益々のご発展をお祈りし、「全循研の夕べ」が今後も開催されることを切に願います！



被ばく線量低減推進施設認定について

会員の皆様には、日頃は全国循環器撮影研究会（全循研）の運営に何かとご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。念願の懸案になっていました標記の施設認定が大勢の方々のご努力により実現の運びとなりました。

2004 年 6 月に 13 学会と 2 団体のオブザーバのもと「IVR に伴う放射線皮膚障害の防止に関するガイドライン」としてまとめられ、IVR に携わる施設への適用が開始されました。また、全循研の研究班が独自にまとめた「診療放射線技師がかかわる心臓カテーテル検査における透視線量および被ばく低減技術のガイドライン」を普及させると共に「循環器被ばく低減技術セミナー」を 2001 年 11 月から各地で開催してきました。

全循研は一貫して被ばく線量低減に向けて努力をしてきました。そんな中全循研専門委員会として、循環器画像技術研究会の加藤京一委員長を中心とする「被ばく線量低減推進施設認定基準作成委員会」を立ち上げ全国の推進母体から推薦して頂いた 7 名の委員で認定基準をまとめてもらいました。

「作成委員会」は認定基準をまとめて頂いた時点で発展的に解散して、新に全循研会長を委員長として全国の推進母体から推薦して頂いた 8 名（作成委員からの継続者も含む）で「被ばく線量低減推進施設認定委員会」を発足させました。

審査は書類審査でのスタートと致しました。申請は別添の通りであります。被ばく低減セミナー受講が必須となっております。全循研ご入会と共に是非セミナーの受講をお願いします。また、推進母体からの推薦も必要となりますので、お近くの推進母体に加入をお願いします。

日本放射線技術学会第 63 回総会学術大会の第 48 回放射線撮影分科会で「循環器専門技師に必要な知識と技術」と題してワークショップが開催されました。いよいよ循環器撮影専門技師認定制度の設立に向けて動きが出てきました！血管撮影インターベンション専門技師認定機構：仮称」設立が現実のものとなりつつあります。江口班長（元全循研会長）からは認定機構が設立され機構の運営が上手くいくかどうかは全循研会員の皆様にかかっていると言っても過言ではない。協力をよろしくとありました。

施設認定、技師認定と全循研ならではの活躍をお願いしまして挨拶に代えさせていただきます。

被ばく線量低減推進施設認定委員長・全循研会長 安永國廣

被ばく線量低減推進施設認定の申請について

申請受付開始：2007 年 4 月

審査方法：書類審査のみ（推進母体からの推薦が必要）

申請資格：1) 2)の両者を満たす施設

1)全循研の会員が所属する施設であること。

2)その会員が被ばく低減セミナーを受講していること。

申請手順

全循研の HP より申し込み書類をダウンロードする（本だよりの申請書をコピーしても可）

申込者が以下の書類を推進母体に提出し、推進母体より署名をもらう。

被ばく線量低減推進施設認定申請書（書類 1）

被ばく線量低減推進施設認定基準書（書類 2）

血管検査室基準についての回答（書類 3）

被ばく低減セミナーの受講終了証書のコピー

申込者は推進母体から返信された書類を施設認定委員長に提出する。

認定委員により可否について審議します。

認定施設には事務局より認定証書を発行します。

《提出先》

〒596-8501 大阪府岸和田市額原町 1001 番地 市立岸和田市民病院

放射線科 安永 國廣（被ばく線量低減推進施設認定委員長）

TEL：072-445-1000 FAX：072-441-8812

推薦署名を依頼する推進母体代表氏名および所属施設

北海道アンギオ研究会	市川 和弘（北海道循環器病院）
東北循環器撮影研究会	江口 陽一（山形大学医学部附属病院）
新潟アンギオ画像研究会	入沢 佳弘（長岡赤十字病院）
循環器 I・S 研究会	金子 栄一（河北総合病院）
循環器画像技術研究会	若松 修（NTT 東日本関東病院）
東海循環器画像研究会	可児 敏廣（中京病院）
北陸アンギオ研究会	米沢 正雄（金沢循環器病院）
関西循環器撮影研究会	安永 國広（市立岸和田市民病院）
中四国循環器画像技術研究会	水谷 宏（松山赤十字病院）
九州循環器撮影研究会	梅津 芳幸（九州大学医学部附属病院）

なお，上記施設の住所については全国循環器撮影研究会誌 No.19 の名簿参照してください。

被ばく線量低減推進施設認定申請書

被ばく線量低減推進施設認定委員長

全国循環器撮影研究会会長 安永國広 殿

申請者 _____

所 属 _____

被ばく線量低減推進施設認定基準書に従い施設認定を申請いたします。

登録施設および申請者は、申請後も被ばく線量低減推進施設認定基準書に基づき、
循環器領域のカテーテル検査における被ばく線量低減に努めることを遵守しま
す。

所属推進母体			
申請を受ける施設名			
所在地	〒		
血管撮影室数	部屋		
全国循環器撮影研究会被ばく低減セミナー受講終了番号			号
申請年月日	西暦	年	月 日

上記の施設が「被ばく線量低減推進施設認定」を申請することについて、
適切な施設であることを認め、ここに推薦します。

推進母体代表 _____

印

被ばく線量低減推進施設認定基準書

施設基準について下記の項目に従い必要事項を記入してください。

項目 1 . 1年に1回の装置メーカーまたは医療機関による保守点検を実施し, その記録がなされていること.

- ・ 最終保守点検日 :
- ・ 保守点検者および所属 :

項目 2 . 透視線量, 撮影線量および漏洩線量の測定を1年に1回以上実施し, その記録がなされていること(メーカー委託でも可).

- ・ 最終測定日 :
- ・ 線量測定者および所属 :

【貴施設で測定を行った場合のみ, 空欄に使用した線量計について記載してください。】

項目 1 . 2 については書類のコピーを添付すること。

必要に応じて書類の提出を求めることがある。

品 名 例) Dose Dose-rate Meter
 形 式 例) RAMTEC-1500B PC-4P
 校正方法 例) JQA校正要領書による(文書番号E14366)
 校正年月日 例) 2004年8月30日
 証明書番号 150-43856

品 名	
形 式	
校正方法	
校正年月日	
証明書番号	

血管検査室基準について下記の項目に従い，項目について回答してください．

「無駄な透視をしない」を啓発し続けている．	はい，いいえ
低レートパルス透視（低線量透視）を必要に応じて使い分けている．	はい，いいえ
必要最小限の撮影レート，撮影フレーム数を実践している．	はい，いいえ
軟線除去フィルタを X 線管に付加している．	はい，いいえ
透視線量，撮影線量を適切に調整している．	はい，いいえ
焦点皮膚間距離をできるだけ離すように実践している．	はい，いいえ
1.1. および FPD を皮膚面に，できるだけ近づけるよう実践している．	はい，いいえ
照射野を必要最小限に絞ることを実践している．	はい，いいえ
過度のインチアップを避けることを実践している．	はい，いいえ
線量または透視時間の記録をしている．	はい，いいえ
2Gy を超えたと思われた時の対処方法が検討されており，適切にアドバイスできるように心がけている．IVR 時の患者被曝線量を何らかの形で計測・推測しカルテ等に記載する等．	はい，いいえ
継続した装置管理を実践している（施設で日常の QC, QA を実践している）．	はい，いいえ
目的に応じたプロトコール作成をし，それを実践している．	はい，いいえ
スタッフの教育・訓練を定期的に行っている．	はい，いいえ

各項目の詳細については，全循研の「被曝低減技術セミナーテキスト」を参考にして頂きたい．このようなことを毎日継続的に実行し，意識しなくても自然に行動できるよう取り組むことが重要である．

全部で 16 項目あり「10 項目以上で認定基準を満たす」としたい．

太字は必須条件とする．

なお，全循研もしくは推進母体主催「循環器被曝低減技術セミナー」受講者（5 年以内）が担当していること．

認定期間は 5 年間とし，5 年ごとに認定基準に合致していれば更新する．

【第 13 回循環器被ばく低減セミナー開催案内】

主催：全国循環器撮影研究会

循環器画像技術研究会

協賛：日本放射線技術学会放射線防護分科会

開 催 日 時	：平成 19 年 9 月 1 日(土)		
開 催 場 所	：NTT 東日本関東病院	品川区東五反田 5-9-22	電話：03-3448-6111 (代表)

プログラム

時 間	講 義 内 容	講 師	
10:00-10:30	放射線の人体への影響	今 関 雅 晴	千葉県がんセンター
10:30-11:00	X線装置による被ばく低減	大 沢 三 和	昭和大学病院
11:00-11:30	X線防護用具	福 地 達 夫	NTT 東日本関東病院
11:30-12:00	品質管理	石 川 栄 二	横浜市立大学附属市民総合医療センター
12:00-12:30	線量測定法	坂 野 智 一	横浜市立大学附属市民総合医療センター
12:30-13:15	昼休み		
13:15-14:00	FPD 関連の講義	佐 藤 久 弥	昭和大学横浜市北部病院
14:00-15:00	放射線被ばくの臨床と病理	中 川 恵 一	東京大学病院
15:00-15:30	面積線量計の簡便な使用方法 (実習説明)	坂 本 肇	山梨大学病院
15:30-16:30	測定実習 (面積線量計の簡便な校正方法)	塚 本 篤 子	NTT 東日本関東病院
		田 島 修	埼玉県循環器・呼吸器病センター
		坂 本 肇	山梨大学病院

【第 14 回循環器被ばく低減セミナー開催案内】

主催：全国循環器撮影研究会

北陸アンギオ研究会

協賛：日本放射線技術学会放射線防護分科会

開催日時 平成 19 年 9 月 30 日（日）

開催場所 金沢大学医学部附属病院 1F 合同カンファレンスルーム他

講 師	山梨大学医学部附属病院	坂本 肇先生
	NTT 東日本関東病院	塚本篤子先生
	金沢大学医学部附属病院	飯田泰治先生
	富山大学附属病院	熊谷道朝先生
	富山大学附属病院	新谷光夫先生 他

問い合わせ先

〒930-0194 富山市杉谷 2630

富山大学附属病院 放射線部内

北陸アンギオ研究会事務局

【第 15 回循環器被ばく低減セミナー開催案内】

主催：全国循環器撮影研究会

循環器画像技術研究会

神奈川アンギオ研究会

協賛：日本放射線技術学会放射線防護分科会

開催日時：平成 19 年 12 月 1 日(土)

開催場所：神奈川県（詳細未定）

プログラム未定

問い合わせ先(下記のアドレスにメールで問い合わせてください)

全国循環器撮影研究会事務局

大阪府立母子保健総合医療センター 放射線科 田辺智晴

アドレス tanabe@mch.pref.osaka.jp

平成 19 年度 全循環理事と推進母体研究会代表者名簿

担当(推進母体)	氏名	勤務先
事務局		
会長	安永 国広	市立岸和田市民病院
事務局長	田辺 智晴	大阪府立母子保健総合医療センター
事務局員	大角 真司	倉敷中央病院
会員担当	相良 健司	泉州救命救急センター
だより編集局長	福西 康修	彩都友誼会病院
経理局長	横山 博典	国立循環器病センター
情報局長	市田 隆雄	大阪市立大学医学部附属病院
情報局員	奥迫 謙治	大阪市立大学医学部附属病院
情報局員	才田 壽一	奈良県立医科大学附属病院
理事		
総会企画委員長(常任理事)	若松 修	NTT 東日本関東病院
総会企画委員	井上 勝広	北海道立小児総合保健センター
総会企画委員	高須賀 正章	済生会中央病院
総会企画委員	横山 博典	国立循環器病センター
編集委員長(常任理事)	佐藤 州彦	みやぎ県南中核病院
編集委員	米沢 正雄	金沢循環器病院
編集委員	今田 直幸	医療法人あかね会土谷総合病院
学術委員長(常任理事)	吉村 秀太郎	新潟大学医歯学総合病院
学術委員	可児 敏廣	社会保険中京病院
学術委員	小川 和久	九州大学病院
監査		
中四国循環器画像技術研究会	水谷 宏	松山赤十字病院
循環器画像技術研究会	景山 貴洋	千葉県循環器病センター
推進母体代表		
北海道シネ撮影技術研究会	市川 和弘	北海道循環器病院
東北循環器撮影研究会	江口 陽一	山形大学医学部附属病院
新潟アンギオ画像研究会	入沢 佳弘	長岡赤十字病院
循環器 I・S 研究会	金子 栄一	河北総合病院
循環器画像技術研究会	若松 修	NTT 東日本関東病院
東海循環器画像研究会	可児 敏廣	社会保険中京病院
北陸アンギオ研究会	米沢 正雄	金沢循環器病院
関西循環器撮影研究会	安永 国広	市立岸和田市民病院
中四国循環器画像技術研究会	水谷 宏	松山赤十字病院
九州循環器撮影研究会	梅津 芳幸	九州大学病院

全国循環器撮影研究会だより (No.21)

発 行 日 : 2007 年 6 月 30 日

発行責任者 : 安永国広

事 務 局 : 大阪府立母子保健総合医療センター 放射線科内
全国循環器撮影研究会 事務局

〒 594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

編 集 : 福西康修

印 刷 所 : 石川特殊特急製本株式会社

〒550-0004 大阪市西区靱本町 1 丁目 5 番 15 号